
髪

ひとこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
髪

【Nコード】
N2910K

【作者名】
ひとこ

【あらすじ】
閻魔と鬼男初めの方。
閻魔の髪が短い理由。

(前書き)

片思いです。
乙女閻魔様。

「髪切らないんですか。」

「髪？」

「長い髪ってうっとおかしいじゃないですか。なのに、面倒くさがりの貴方が。」

今まで髪を切ろうなんて考えたこともなかった。そりゃあ長いし絡まるしで大変だけど。

「じゃあ、鬼男君切ってくれる？」

「・・・別にいいですけど。」

君がちよっとバツの悪そうな顔をする。別に怒ってるんじゃないけどなあ。

最後の死者を裁きおえて、今日の仕事が終わる。

「鬼男君。」

「はい？」

「残業終わったら俺の部屋に来てね。」

「髪、ですか。」

「うん。」

「分かりました。」

君の短い返事が結構好き。

彼は俺が言った通り部屋に来た。
わざわざ鋏まで持って。

「大王。」

「ん？」

「どれぐらいに切るんですか。」

「・・・君の好きにしていーいよ。」

「じゃあハゲにしてもいいんですね。」

「いやいやいや！それはよしてね！」

彼の手が俺の髪を撫でる。

耳を触る、頭を触る。

「じゃあ肩ぐらいまで切りますね。」

君の吐息が頬にかかる。
それだけで、俺の心臓は。

恋なんて、するもんじゃない。
切実にそう思う。

(後書き)

鬼男君は自分で切ってそうですね。
私の中の鬼男君は手先が器用なようです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2910k/>

髪

2010年10月10日21時10分発行